

高等学校教育改革



平成30年5月18日

初等中等教育局



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

高等学校教育改革

- 地域振興の核として高等学校教育の質の向上に取り組む。
- 高等学校と市町村、地元企業、大学等が連携し、高校生に地域課題解決等を通じた探究的な学びを提供する仕組みを構築し、成果を全国へ普及する。



高校生と地域課題のマッチングを効果的に行うための仕組みを構築

高等学校における取組

- ・地域との協働による活動を学校の活動として明確化
- ・学内における実施体制を構築

- ✓地域における活動を通じた探究的な学びの実現(新たな学習指導要領への対応)
- ✓学校の中だけではできない多様な社会体験

<コンソーシアムを構築>



学校と地域とをつなぐ
コーディネーターを指定



- ・非営利法人職員
- ・公民館主事
- ・大学教員
- ・PTA代表
- ・地元産業界代表 等

学校・生徒からの要望を踏まえ地域とのマッチングを実施

地元地域

- ✓高校生のうちに地元地域を知ることにより、地元への定着やUターンが促進される
- ✓地域の活動に高校生が参画することにより、地域活力の向上へ貢献

コンソーシアムにおいてKPIを設定
実施校におけるPDCAサイクルを推進
するとともに、成果を全国へ普及

全国の先進事例①（長野県飯田市）

○飯田OIDE長姫高校（県立）と飯田市（公民館）と松本大学の3者がパートナーシップ協定を締結し、高校生が地域課題を主体的に考える「地域人教育」の実施を支援。

地域人教育とは

地域人 地域を「愛」し、「理解」して、地域に「貢献」する人材

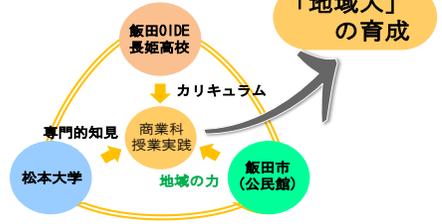
平成24年度に飯田OIDE長姫高校・松本大学・飯田市の3者によるパートナーシップ協定を締結



地域人教育の目的（飯田OIDE長姫高等学校地域人教育推進に関するパートナーシップ協定より）

- ①地域人教育を通して、結ぶ力を学び、地域理解を深め、地域での生き方を考え、地域愛を育み、地域において活動できる地域を担う人材を育成する。
- ②10年後を見据え、住みたい、暮らしやすい地域のあり方を創造する人材を育成する。

パートナーシップ協定のイメージ



事業展開

- 1年生 **ビジネス基礎**
「地域を知る・地域の見方を学ぶ」
- 2年生 **広報と販売促進**
「地域と関わる・地域に参加する」
- 3年生 **課題研究**
「これまでの学びを活かした地域への主体的参加体験」

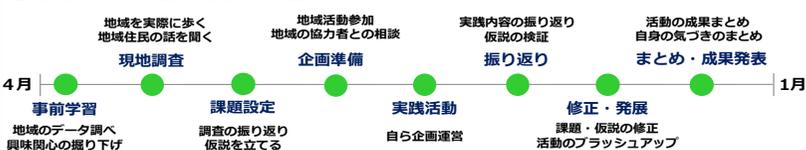
地域人教育の仕組



地域人教育のカリキュラム

学年	科目	学習内容
1学年	【基礎】 ビジネス基礎 (3単位・105h)	* 講義・演習 外部講師による講義 フィールドスタディ (松本市、飯田市、東京都)
2学年	【応用】 商業実務 (2単位・70h)	* 地域でのイベントの運営サポート “りんご並木まちづくりネットワーク”に参加 年間6回程度イベントの運営サポート インターンシップを連携企業で実施
3学年	【実践】 課題研究 (3単位・105h) 金曜日4～6時間目	* 地域づくり・課題解決への取り組み 地域商品開発・販売 イベント企画、運営 地域課題の取り組み (公民館との連携)

地域人教育（3年生）の授業プロセス



学びを深める要素

- ① 素敵な生き方をしている人との出会い
- ② 一緒にやる「仲間」の存在
- ③ 必要とされる「自己有用感」
- ④ 考えを整理して伝える機会

地域人教育のポイント

地域の美態・課題・解決策を探る
探求的な学び
地域の人と関わる
体験的な学び
地域づくりの当事者として行動する
実践的な学び

これらを踏まえ、
地域での系統的な学習を通して、
高校生の「意欲・価値観・学力」を育む。

自らの人生を切り開いていく力をつけるとともに、
地域に心の根を置き、誇りをもつことのできる人材が育つ。

全国の先進事例②（島根県）

- 教育委員会が地域振興部等と連携し、「教育魅力化推進チーム」を設置するとともに、県内の高等学校と市町村等との協働による教育魅力化に向けた取組を支援する「教育魅力化事業」を実施。

島根県立高校における取組例

○横田高等学校（奥出雲町との連携）

地域貢献できる生徒の育成を目標として奥出雲町と連携し、以下の取組を実施。

『奥出雲学』

- ・校外での取材等を通じ、地域課題解決等に向けた提案を取りまとめ、ポスターセッション等を実施。（テーマ例：「奥出雲の野菜発信」、「女子高生が案内するおいしい、かわいい、きれい女子旅」等）

『だんだんカンパニー』

- ・仮想会社だんだんカンパニーを設立し、生徒が社員となって、地元名産の仁多米・ブルーベリージャム等の販売に向け、市場調査・パッケージデザイン・広告宣伝等の活動を通じ、地域資源の価値や可能性を学ぶ。

○吉賀高等学校（吉賀町との連携）

ふるさとでの学びや体験をもとに、将来、吉賀町を支える人材の育成を目標として、以下の取組を実施。

『サクラマス・ドリーム・プログラム』

- ・地域資源の活用について、高校生が東京の大学生と協同研究を実施。（例：地元商店や林業・農業等の振興をテーマとして、吉賀町及び東京で取材活動を実施）

○矢上高等学校（邑南町との連携）

邑南町の主要施策「日本一の子育て村構想」や「A級グルメ構想」の理念を踏まえ、町と連携した教育を実施。

『おおなん学』

- ・邑南町に関する学習の後、町内の病院・介護施設等で研修を実施。その後、地域の課題に向き合い解決策を提言する「矢上高校生が語る未来フォーラム」の実施等を通じて課題解決能力等を養う。

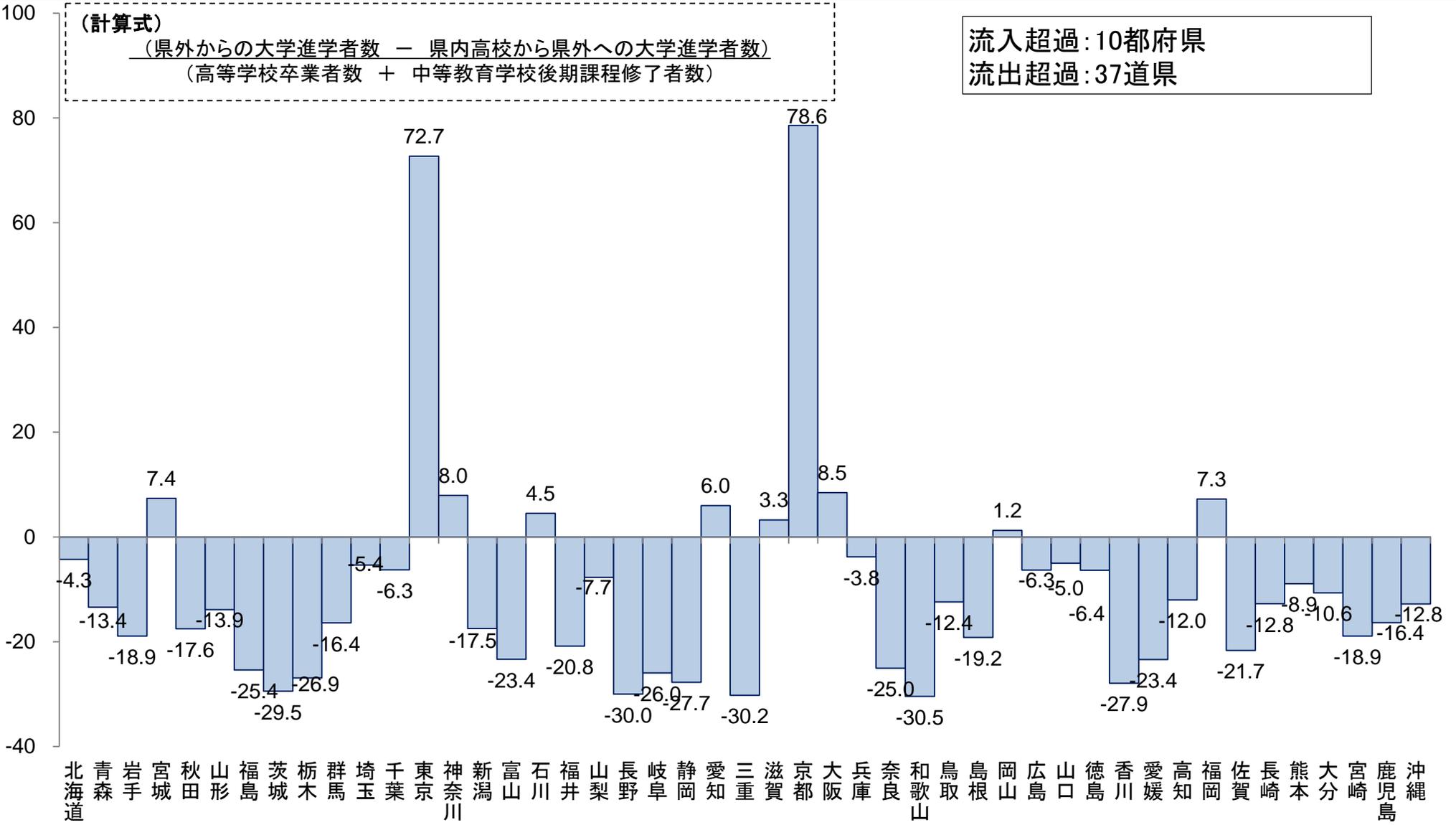
『スイーツ甲子園・食の縁結び甲子園への挑戦』

- ・邑南観光協会との連携により、産業技術科の生徒がプロのパティシエ等から直接指導を受ける機会を提供。

參考資料

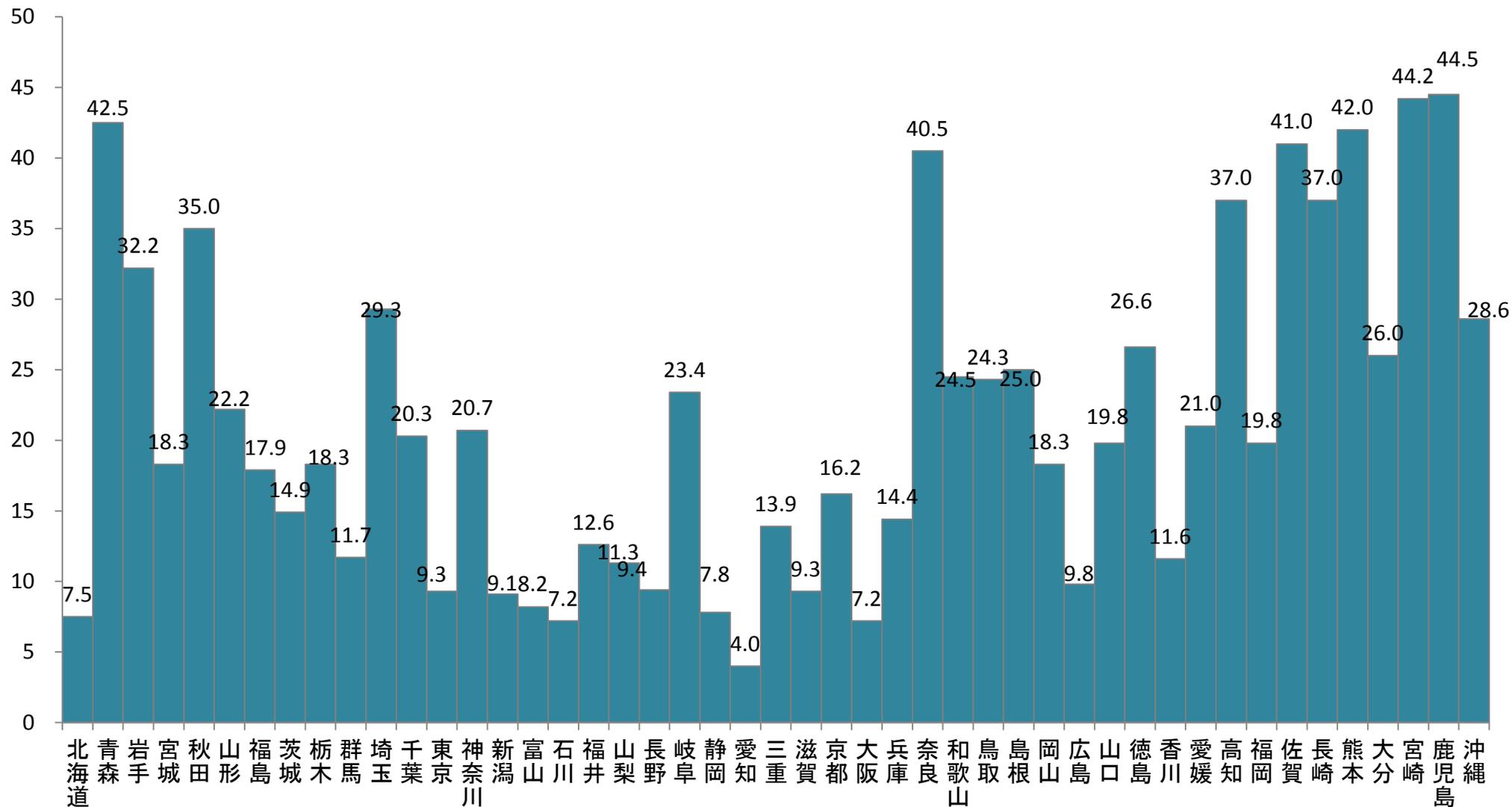
大学進学時の都道府県間人口移動

大学進学時、東京・京都等の一部の都府県を除き、多くの道県では流出超過の状況が生じている。



高等学校卒業後に就職した者のうち県外就職者数の割合

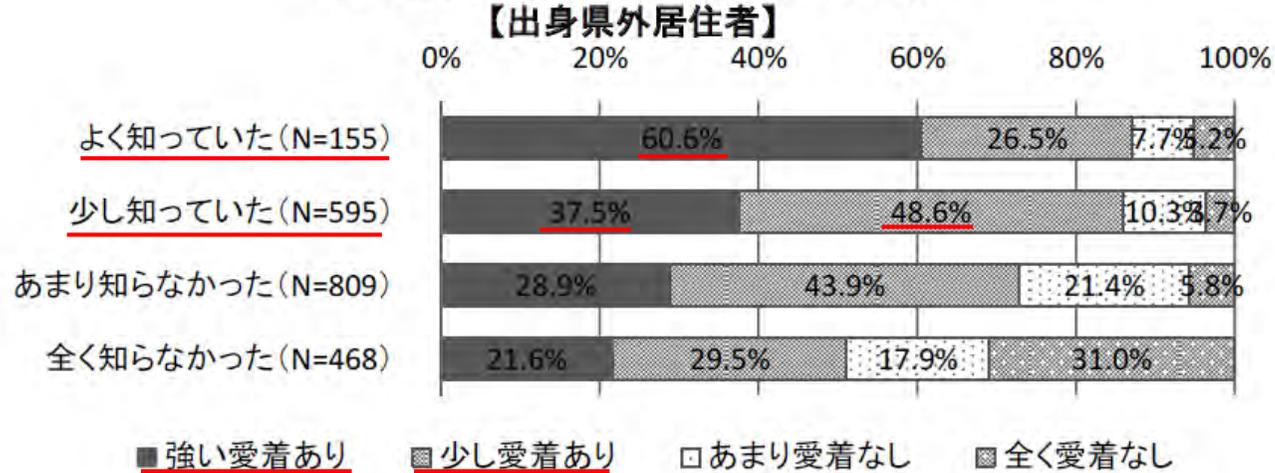
東北地方・九州地方を中心に、多くの高校新卒者が県外での就職を選択している。



出身市町村へのUターン希望状況

高校時代までに(転出前に)地元企業を知ったことが、転出後も出身地への愛着として残り、Uターン希望につながっていることがうかがえる。

【出身市町村への愛着】
—高校時代までの地元企業の認知程度別—



【出身市町村へのUターン希望】
—出身市町村への愛着有無別—

